

初歩的な理解をめざす初等法関連教育の授業構成

－『法、権利 そして責任』を手がかりとして－

二階堂 年恵

初等教育段階の子どもたちが初めて権利とはいかなるものか学ぶとき、またその権利を行使するときどのように振る舞えば法の目的が達成されるのだろうか。

これまでわが国の小学校社会科における法や権利などの法概念に関する学習では、日本国憲法は、われわれの基本的な人権として思想や学問の自由や教育を受ける権利などについて保障していることや、大人になったら子どもに教育を受けさせる義務があることも定めていること、その他のような権利が定められているのか調べる学習がなされている。

実際に私たち身の回りにはいかなる権利が存在し、またその権利を正当に行使するときは、どのように振る舞えば社会的正義を実現することになるのだろうか？

本稿においては、アメリカの法関連教育の教育団体が小学校第3学年の社会科教材として開発した『法、権利 そして責任』を取り上げ検討する。本教材は、憲法に保障されている権利だけでなく、これらの権利を行使している各々個人の責任も理解させ、法、権利、責任に関する組織化された学習が行われている。子どもたちに民主主義社会において生きていく準備をさせるために重要な概念である法、権利、責任に関する導入的な理解を発達させるためには授業はいかなる展開がなされているのか本教材から示唆を得る。

1. はじめに

近代社会の市民は、その社会を規律する法に従い、自己の権利を正しく行使する責任を負わなければならない。もとより、権力に盲従し、権利の主張を怠ることは、法秩序の正しい保持に有害であるが、他方で、順法精神を欠く権利の主張は、法的安定性をおびやかす、正義に反することになる。社会の構成員が順法の意識を高めつつ、権利を正当に行使していくところに法の目的が達成されるのである¹⁾。

法にとって、権利は最も中心的な概念であり、権利なくして法もまた存在しえない。現在、権利という言葉は、日常生活の中で頻繁に使われているが、そもそも権利とは何かと問われれば、多くの人は戸惑うだろう。単に自分の利益を主張したり、ある要求をすることが

権利なのではない。権利とは、相手方がその要求の社会的正当性を承認し、その要求に応じる義務を認めた場合に始めてその利益は権利となる。私的利益は本来利己主義的なものであるが、権利は正義の実現であるから、社会の道理にあったものでなければならないのである。つまり権利とは社会的正義としての公的性質をおびたものとして普遍的に承認された利益内容のことで、この点が権利と異なるエゴイズムとの差異である。

初等教育段階の子どもたちが初めて権利とはいかなるものか学ぶとき、またその権利を行使するときどのように振る舞えば法の目的が達成されるのだろうか。これまでわが国の小学校社会科における法や権利などの法概念に関する学習では、日本国憲法は、われわれの基本的な人権として思想や学問の自由や



教育を受ける権利などについて保障していることや、大人になったら子どもに教育を受けさせる義務があることも定めていること、その他どのような権利が定められているのか調べる学習²がなされている。実際に私たち身の回りにはいかなる権利が存在し、またその権利を正当に行行使するとき、どのように振る舞えば法的安定性を脅かさず、社会的正義を実現することになるのだろうか？

そこで本稿においては、American Lawyers Auxiliary Law-Related Education Resource Committeeが小学校第3学年の社会科教材として開発した初等法関連教育『法、権利そして責任』を取り上げ検討する。本教材は、憲法に保障されている権利だけでなく、これらの権利を行使している各個人の責任も理解させ、法、権利、責任に関する組織化された学習が行われている。(アメリカの初等法関連教育においては、一つの法概念について学ぶ、例えば、「責任」だけを取り上げた教材は数多く見受けられる³が、本教材のように法、権

利、責任を関連付けて学習させるタイプのものは見受けられない。)

『法、権利そして責任』の目的は、子どもたちに民主主義社会において生きていく準備をさせるために重要な概念である法、権利、責任に関する導入的な理解を発達させることである⁴。加えて、本授業は、子どもたちに自分自身の考えを発表させ、他の子どもたちの考えを聞くという相互作用的な授業展開もなされている。

2. 『法、権利そして責任』の全体構成

－法とアメリカ法原理の知識と認識の習得過程－

合衆国の社会科は、“合衆国社会に適応しよう”良き市民の育成を目的としているため、合衆国型民主主義の諸原理が真理であるとの前提に立ち、その習得を目ざす教科となっている傾向がみられる⁵。『法、権利そして責任』の学習目標を表1に、授業構成を表2に示す。

表1 『法、権利そして責任』の学習目標

| レッスン | 授業の目標 |
|------|---|
| 1 | 子どもたちが法という言葉を定義できるようになる。 法によってもたらされる利益を説明できるようになる。 法の利益を日常生活で享受することができるようになる。 |
| 2 | 子どもたちが自らの法に対する理解を文章で表現できるようになる。 |
| 3 | 子どもたちが「われら人民」の一部となる感情、そしてアメリカ合衆国の市民であるという意識を身につけるようになる。 |
| 4 | 子どもたちが享受してきた権利から自由を認識できるようになる。 |
| 5 | 子どもたちが権利と責任の関連性を説明できるようになる。 |
| 6 | 子どもたちが内容を理解したうえで「忠誠の誓い」ができるようになる。 |
| 7 | 子どもたちが、法、権利、そして責任に関する事項を説明できるようになる。 |



このように合衆国では、憲法で保障された諸原理を理解しそれらを実現していく市民を育成しようとしている。

また、法関連教育において最終的にめざされるのは、市民として法に基づいて責任ある行動を積極的に行う態度の形成にある⁶とされている。

(なお本稿では、民主主義の原理内容について、また子どもたちの判断と発達過程の関連については言及しない。責任概念についても、「責任 (Responsibility)」は、自分の仕事や義務などを遂行する責任、とされている⁷が、規定されている法から派生してくる責任に限定して取り扱うこととしている)

レッスン1では、教師が子どもたちに「Law」(法) (資料1参照) と書かれたカードを提示し、思い浮かんだ言葉を述べさせ、すべての答えを、黒板に提示した「法」という言葉の周辺に書かせていく。そして、「法」の周辺に書かれた言葉の中から「法」を最もよく表現する言葉の一つ選ばせ、それに同意するかクラス全体に問い、肯定的であれば、それをワークシート1 (資料参照) の大きな三角形の中に記入させる。5つの言葉が選ばれるまでこの作業を繰り返す。

ここでは、子どもたちが「法」という言葉を定義し、「法」によってもたらされる利益を説明し、それらの利益を日常生活で享受することができるようにしている。

レッスン2では、「法」を理解する手助けとなるようなアイデアを多く含む文章をワークシート2 (資料参照) に共同作業で書かせている。文章作成にはみんなでより良い文章を作るように取り組みさせ、ある一文が出たら、それを黒板に書き、その一文がふさわしいかどうか、改良が必要かどうかクラス全員に尋ねている。

ここでは、子どもたちに、自らの「法」に対する理解を文章で表現できるようにさせている。

レッスン3では、教師が「Constitution」(憲法) (資料2参照) と書かれたカードを提示し、憲法は時に「土地の法」と称されるが、それは憲法の何を私たちに伝えているのだろうか? その土地とはどこだろうか? そして、その中にはどれだけの人が含まれているのだろうかを問うている。続いて、ある画家の描いた「われら人民」(資料3参照) の絵を持ちながら、この絵が、何を表しているかを子どもたちに問い、「われら人民」を表すような絵を、これまで学んだことを活かしてワークシート3 (資料参照) に描かせている。この作業を終えたら、「This Land is Our Land (この土地はわれらの土地)」を合唱し、合衆国市民であることの誇りを身に着けさせている。

ここでは、子どもたちに「われら人民」の一部となる感情、そしてアメリカ合衆国の市民である意識を身に着けさせている。

レッスン4では、レッスン2で書いたワークシート4 (資料参照) から抜粋してきた一文を子どもに読むように指示し、その一文を黒板に示し、それが何を意図するのかを尋ねる。もし答えがなければ、黒板にあるもの以外の文を発表するように求め、出尽くしたら再度それらの文が何を意図しているのかを尋ねる。もし答えが出なければ、「権利」という言葉を全ての文の上部に貼り付け、子どもたちに「権利」と読ませ、それぞれの文章を音読するように求める。その後、「権利」を説明する文を切り取って、ワークシート1のRIGHTS (権利) の箇所には張り付けさせる。最後に、「権利」が我々一人ひとりに何を与えているかを表す言葉を尋ねる。(もし答えがなければ、青信号で道路を渡ろうとする時に、車は赤信号で止まらなければならない、という時に彼らが持っているものを聞く)

ここでは、子どもたちに享受してきた権利から得た自由を認識させている。

レッスン5では、憲法修正第1条を黒板に貼り付け、これが国家の最高法規である憲法



から抜粋されたことを説明する。子どもたちに、以前に議論した権利に関する言葉を思いつけるか尋ねる（信仰および信教の自由、言論の自由、思想・出版の自由）。そして「人民が平穩に集会し、また苦痛の救済を求めるため政府に請願する権利」という部分を朗読し、この文が、政府に対して自らの意思を伝えるために平和的に集会する権利を人々は持っていることを説明する。自らの意志を伝えるためにデモ行進をしている集団が、どのようにふるまうべきかを規定する言葉が何かを尋ねる。（平穩に）

次に子どもたちに、朝起きてから何か責任が生じたかを尋ねる。答えがなければ何人が学校に歩いて通学したかを尋ね、それは学校に行くためにあなたたちに「歩く」という責任が生じたことを話す。「遅刻しないように学校に行く、という私の責任」の文章を与え、責任という言葉に代わるような言葉を思いつくか尋ねる（義務）再度、義務という言葉を用いて先ほどの文を読み上げる。

次に子どもたちに、黒板に書いた以下の文を音読させる。「不都合なことをしないこと」、「学校の規則を守ること」、「他人を傷つけないこと」、「教会では規則を守ること」、「規則正しい行動をすること」、このような文にどのような題をつけるかを聞く（責任、義務）。子どもたちにワークシート1を配り、これらの権利と責任に関して議論し、関係性を調べ、ワークシート1のふさわしい箇所に記入させる。

ここでは、子どもたちが権利と責任の関連性を説明できるようにさせている。

レッスン6では、子どもたちに対して、自分たちが話していることや聞いていることに何の意味もないということがどれだけ興味・関心を削ぐことになるかを考えたことがあるか質問する。次に黒板にワークシート5（資料参照）の「私はアメリカ合衆国国旗と、それが象徴する、万民のための自由と正義を備

えた、神の下の分割すべからざる一国家である共和国に、忠誠を誓います」を書き、これが何かわかるかどうか、また、下線部分の単語が何を意味するのか分かるか質問する。下線の引かれた単語を指示し、これに代わる単語を考え、何も思いつかないようなら、「私は仕事に遅刻しないように誓います」という文を提示する（約束）。その言葉を「誓います」の言葉の下に張り付ける。次に、下線の引かれた次の言葉を発音するように求め、意味を尋ねる。返答がなければ、「私はあなたへの忠誠を約束することを誓います。思い浮かべている言葉は忠義です」という文を提示して、その言葉を「忠誠」の下に張り付ける。以上のような議論を下線の引かれた単語すべてに関して行わせる。忠誠の誓いを代替させた言葉を使って音読させる。その結果、忠誠の誓いを読んだ時の感情に変化があったか尋ねる。

ここでは、子どもたちが内容を理解した上で、「忠誠の誓い」ができるようにさせている。

レッスン7では、子どもたちに権利が私たちに何を与えているのか尋ねる（自由）。自由を与える権利をいくつか挙げる（宗教、言論、報道）。次に「責任」を置き換える言葉を子どもたちに尋ね（義務）、義務と責任に関する文を発表させる。

ワークシート6（資料参照）を配布し、質問表の全文を読み上げ、大人の人からの情報を得るための準備として、質問表の質問それぞれに関して議論させる。情報を集めるに当たってふさわしい手法を議論し、報告者として子どもの名前をサインさせ、翌日に報告者として情報を発表することを求める。

子どもたちに、一人ひとりが昨晚集めた情報を報告する責任があることを指示し、黒板に子どもたちによって報告された情報を記録するための表を書かせる。書かれた「権利」と「責任」が同様のものか、それとも異なるものかを検証し、それらがなぜ異なっているのかを議論させる。また、集められた情報を



見てどの権利が最も頻繁に述べられているか、その原因を考えさせ（重要な権利だから）、大人たちから集められた情報であるということから、これが大人たちの何を表しているのだろうか考えさせる（大人たちは権利と共に責

任を負う）。

ここでは、まとめとして子どもたちが、法、権利、そして責任に関する事柄を説明できるようにさせている。

表2 『法、権利 そして責任』の授業構成

| 単元 | 教師による発問 | 教授学習活動 | 子どもたちに獲得させたい知識 |
|----|--|--|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 教師は、「Law」（法）と書かれたカードを提示する。 教師は、「法」という言葉を見た時に、どんな言葉を思い浮かべたかと問われた子どもに関する話をし、その子どもの答えは「自由」だったことと、その子どもがどのようにしてその言葉を思い浮かんだのかを質問した時、その子どもが「車が停止標識の前に来た時、法は運転手に停止させ、それで私は渡ることができた。これは自由ではないのか？」と答えたことを話す。この子どもの発言をどう思いますか？ 今度は、あなたたちが「法」という言葉で思い浮かんだ言葉を答えてください。 すべての答えを、黒板に提示した「法」という言葉の周りに書いてください。 すべて出尽くしたら、子どもたちに黒板の「法」の周囲に書かれた言葉の中から、「法」を最もよく表している言葉の一つ選ばせ、それに同意するかクラス全体に問い、良ければそれを大きな三角形の中に記入させる。 5つの言葉が選ばれるまでこの作業を繰り返す行う。 | <p>T：提示する。</p> <p>T：説明する。</p> <p>T：発問する。</p> <p>P：答える。</p> <p>T：指示する。</p> <p>P：書く。</p> <p>T：指示する。</p> <p>P：記入する。</p> <p>T：指示する。</p> <p>P：記入する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「従うもの」 ・「守られるもの」 ・「ルール」を選び、記入する。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 教師はまず子どもたちに、今日の授業では「法」を理解するために役立つアイデアを多く含む文章を共同作業で書くことを伝える。法に関して行ったブレインストーミングで挙げた言葉のいくつかを利用する。 教師は、次の一文を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「法」という言葉を見たり聞いたりしたとき、多くのアイデアが浮かんでくる。</p> </div> | | |



| | | | |
|---|---|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> この一文は、文章の最初にふさわしいですか？ (文章を作るためにはみんなで取り組んでより良い文章を作ることを伝える) ある一文が出てきたら、それをすべて黒板に書かせ、その一文がふさわしいかどうか、手直しが必要かどうかクラスの全員に尋ねる。この作業を4つの文章が出そろうまで繰り返す。 子どもたちに文章全体を音読させ、文章に対する反応を聞く。 子どもたちにワークシート2を配布し、文章を記入させる。 | <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 指示する。 P: 答える。</p> <p>T: 配布する。 P: 記入する。</p> | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 教師は、「Constitution」(憲法)と書かれたカードを提示する。 この単語を発音してみましょう。 憲法は時に「土地の法」と呼ばれるが、それは憲法の何を私たちに伝えているのだろうか？ その土地とはどこだろうか？ (子どもたちの一人に) 冒頭に何が書いてあるかを読んでみましょう。 人民にはどれだけの人が含まれているでしょうか？ (ある画家が描いた「われら人民」の絵を示し) この絵は何を表しているのでしょうか？ ワークシート3を配り、「われら人民」を表すような絵を、今まで学んだことを活かして描いてみましょう。 | <p>T: 提示する。</p> <p>P: 発音する。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 指示する。 P: 読む。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 指示する。 P: 描く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 憲法はある特定の土地に適用されるもの。 合衆国。 われら人民は、 合衆国に住んでいる人たち。 いくつもの異なる人種、男性と女性、さまざまな年齢の人々。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 憲法に関する前回の授業の復習を行い、ワークシート4から抜粋した一文を配布し子どもに読ませる。 (その一文を黒板に提示し) これは何を意味するのでしょうか？もし答えが出なければ、黒板にあるもの以外の文を求め、その文の題を考えるように指示する。 黒板にあるもの以外の文を発表するように指示し、出尽くしたら再度それらの文が何を表しているのかを尋ねる。もし答えが出なければ、「権 | <p>T: 指示する。 P: 読む。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 指示する。 P: 音読する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校へ行くこと。 変革を求めてデモをすること。 権利。 |



| | | | |
|----------|---|---|--|
| | <p>利」という言葉をすべての文の上に貼り付け、子どもたちに「権利」と読ませた後にそれぞれの文を音読するように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート4を配布し、権利を説明する文を切り取って、ワークシート1の正しい箇所に入させる。(重複させないように子どもたちに注意する) 権利が私たち一人ひとりに何を与えているでしょうか？(もし答えが出なければ、青信号で道路を渡ろうとするときに、車は赤信号で止まらなければならないという時に彼らが持っているものを聞く) | <p>T: 指示する。 P: 記入する。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> | <p>・自由。</p> |
| <p>5</p> | <ul style="list-style-type: none"> 合衆国憲法修正第1条を黒板に貼り、これは国家の最高法規である憲法から抜粋されたことを説明する。 前に学習した権利に関する言葉をいくつか言えますか？ クラス全体で、「人民が平穩に集会し、また苦痛の救済を求めるため政府に請願する権利」という部分を朗読する。これは政府に対して自らの意思を伝えるために平和的に集会する権利を人々は持っていることを説明する。 権利を行使する人々は、どのようにふるまったらよいのだろうか？ 皆さんは今朝目覚めてから何か責任が生じたことがありましたか？(返答がなければ)今日は学校へ徒歩で何人来ましたか？徒歩で来た人は、それは、学校に行くために「歩く」という責任が生じたのではないのでしょうか？ | <p>T: 説明する。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 説明する。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> | <p>・宗教(信仰および信教の自由)</p> <p>・言論(言論の自由)</p> <p>・報道(思想・出版の自由)</p> <p>・平穩にふるまうこと。</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> 「遅刻しないように学校に行く、という私の責任」の文を与え、責任という言葉に代替しうるような言葉を思いつきますか？ 再度、義務という言葉を用いて上記の文を読み上げる。 黒板に書かれた文章を読ませる。 | <p>T: 発問する。 P: 答える。</p> <p>T: 読む。</p> <p>P: 読む。</p> | <p>・義務。</p> <p>・不都合なことをしないこと。</p> |



| | | | |
|---|--|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> これらの文に題をつけるとしたらどのようなものになるだろう？ 子どもたちにワークシート1を配り、これらの責任と義務に関して議論し、関係性を調べ、それをワークシート1のふさわしい箇所に記入させる。 | <p>T : 発問する。 P : 答える。</p> <p>T : 指示する。 P : 記入する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校の規則を守ること。 他人を傷つけないこと。 教会では規則を守ること。 規則正しい行動をすること。 責任。 義務。 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> 皆さんは、自分たちが話していることや、聞いていることに何の意味もないということがどれだけ興味・関心を削ぐことになるか考えたことがありますか？ 黒板に、以下の文を書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>私は、アメリカ合衆国国旗と、それが象徴する万民のための<u>自由</u>と<u>正義</u>を備えた神のものと<u>分割すべからざる</u>一国家である<u>共和国</u>に、<u>忠誠</u>を誓います。</p> </div> これが何か分かりますか？また下線部の単語が何を意味するか分かりますか？今日は、これらの言葉が何を意味するかを考えましょう。下線が引かれた言葉の、これに代わる単語を考えましょう。 子どもたちが何も思いつかないようなら、「私は仕事に遅刻しないよう誓います」という文章を提示し（約束）、その言葉を「誓う」という言葉の下に貼り付ける。 「忠誠」を発音しましょう。そしてこの言葉の意味は何だと思いますか答えてください。 もしも答えがなかったら、「私はあなたへの忠誠を約束するか、誓います。思い浮かべている言葉は忠誠です」という文を提示し、「忠誠」の下に貼り付ける。 「共和国」という意味は何でしょう？ 以上の議論を、下線の引かれた単語すべてに関 | <p>T : 発問する。 P : 答える。</p> <p>T : 説明する。</p> <p>T : 貼り付ける。</p> <p>T : 発問する。 P : 答える。</p> <p>T : 貼り付ける。</p> <p>T : 発問する。 P : 答える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「国家」や「国」 |



| | <p>して行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忠誠の誓いを、代替された言葉を使って音読させる。 ワークシート5を配布し、完成させる。 | P : 音読する。 | | | | | |
|-----------|---|-----------|--|----|----|--|---|
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの復習を簡単に行い、課題をどのようにこなすかを説明する。 ・権利は私たちに何を与えているのでしょうか？ ・自由な権利には何がありましたか？ ・「責任」を置き換える言葉は何がありますか？ ・責任と義務に関する文を発表してください。 (これらは、課題において発表しなければならないという責任を彼らが負っているからである。) ・皆さん一人ひとりが報告者です。報告者がどのような方法で情報を集めるかを話し合しましょう。 ・ワークシート6を配布し、質問表の全文を読み上げ、大人から情報を得るための準備として、質問表の質問それぞれに関して話し合う。情報を集めるに当たってふさわしい方法を議論する。 ・皆さんは、それぞれが集めた情報を報告する責任があります。 ・黒板に、報告された情報を記録するための表を書く。 <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">大人から集めた情報</th> </tr> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">権利</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">責任</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・書かれた「権利」と「責任」は同様のものですか？異なるものですか？異なるならなぜ異なるのですか？ ・どの権利が最も頻繁に述べられていますか？その原因は何でしょうか？ ・これらは大人たちから集められた情報であるということから、これらは大人たちの何を表して | 大人から集めた情報 | | 権利 | 責任 | <p>T : 説明する。</p> <p>T : 発問する。 P : 答える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自由。 ・宗教、言論、報道など。 ・義務。 ・同様のものでない。 ・異なるものである。 ・〇〇の権利 ・重要な権利だから。 ・大人たちは権利と共に責任を負う。 |
| 大人から集めた情報 | | | | | | | |
| 権利 | 責任 | | | | | | |



| | | | |
|--|---|-------------------|--|
| | いるのでしょうか？ ・黒板の情報を紙に書き取り，コピーして子どもたちに配布する。 | T：発問する。 P：答える。 | |
|--|---|-------------------|--|

(Olive D. Leary ed, *Law, Rights and Responsibilities* American Lawyers Auxiliary Law-Related Education Resource Committee, 2005 より筆者作成)

『法，権利 そして責任』の内容構成を表3に示す。

1つめのパートは，レッスン1と2である。レッスン1では，子どもたち自身が法を定義する言葉を見つけ，それによってもたらされる利益を説明し，身近な生活でそれらの利益を享受できるようにさせ，レッスン2では，自らの「法」に対する理解を文章で表現できるようにさせている。ここでは，法知識を習得させている。

2つめのパートは，レッスン3である。レッスン3では，子どもたちが「われら人民」の一部となる感情，合衆国市民であるという意識を身に付けるように絵を描かせたり，歌をうたわせたりしている。ここでは，法認識を習得させている。

3つめのパートは，レッスン4・5である。レッスン4では，子どもたちが権利から得た自由を理解させ，レッスン5では，子どもたちが権利と責任の関連性を説明できるようにさせている。ここでは，アメリカ法原理の知識を習得させている。

4つめのパートは，レッスン6である。レッスン6では，子どもたちにこれまでの学習内容を理解した上で，「忠誠の誓い」をさせている。ここでは，アメリカ法原理の認識を習得させている。

最後のパート，レッスン7では，子どもたちが法，権利，責任について説明できるようにさせ，まとめとしている。

全体では，法とアメリカ法原理の知識と認識の習得過程として組織されている。

表3 『法，権利 そして責任』の内容構成

| レッスン | 主要な学習活動 | 主要な学習内容 | 学習内容構成 | 内容編成 |
|------|---|--|--------|----------------------|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・「法」という言葉から思い浮かんだ言葉を述べ，黒板の「法」の周囲に書く。 ・「法」を最もよく表す言葉をクラス全員で5つ選び，大きな三角形の中に記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが法という言葉を定義し，法によってもたらされる利益を説明できるようになること。 ・それらの利益を日常生活で享受することができるようになること。 | 法知識の習得 | 法とアメリカ法原理の知識と認識の習得課程 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・「法」を理解するための文を共同作業で考え黒板に書く。 ・「法」を最もよく表す文をクラス全員で4つ選びワークシート2に記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自らの「法」に対する理解を文章で表現できるようになること。 | | |



| | | | | | |
|---|---|---|---------------|------------------|----------------------|
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・「憲法」と書かれた単語を発音し、合衆国で生まれた全ての人々は「われら人民」の一部であり、合衆国市民であることを理解し、再度どれだけの人が「われら人民」に含まれるのか、その理由は何かを説明する。 ・ワークシート3に「われら人民」を表すような絵を学んだことを活かして描く。 ・「This Land is Our Land(この土地はわれらの土地)を合唱する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが「われら人民」の一部となる感情、アメリカ合衆国の市民であるという意識を身に付けるようになること。 | 法認識の習得 | | |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート4から抜粋した一文が何を意図するのかを説明する。 ・権利を説明する文をワークシート1に貼り付ける。 ・権利が私たち一人ひとりに何を与えているかを表わす言葉を説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが享受してきた権利から得た自由を理解できるようになること。 | アメリカ法原理の知識の習得 | アメリカ法原理の知識と認識の習得 | 法とアメリカ法原理の知識と認識の習得課程 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・合衆国憲法修正第1条における権利(政府に対して自らの意思を伝えるために平和的に集会する権利を人々は持っていること)を説明する。 ・権利を行使する人がどのようにふるまうべきかを規定する言葉が何かを説明する。 ・黒板に書かれた文(学校の規則を守ること、他人を傷つけないことなど)にどのような題をつけるのか(責任)、権利と責任に関して議論し、その関係性を調べ、ワークシート1のふさわしい箇所に書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが権利と責任の関連性を説明できるようになること。 | アメリカ法原理の知識の習得 | アメリカ法原理の知識と認識の習得 | 法とアメリカ法原理の知識と認識の習得課程 |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・「私はアメリカ合衆国国旗と、それが象徴する、万民のための自由と正義を備えた、神の下の分割すべからざる一国家である共和国に、忠誠を誓います」を音読する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがこれまでの学習内容を理解した上で「忠誠の誓い」ができるようになること。 | アメリカ法原理の知識の習得 | アメリカ法原理の知識と認識の習得 | 法とアメリカ法原理の知識と認識の習得課程 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・権利が私たちに何を与えているかを説明する。(自由) ・自由を与える権利をいくつか挙げる。(宗教、言論、報道) | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが法、権利、そして責任に関する事を説明できるようになること。 | まとめ | まとめ | 法とアメリカ法原理の知識と認識の習得課程 |

(Olive D. Leary ed, *Law, Rights and Responsibilities* American Lawyers Auxiliary Law-Related Education Resource Committee, 2005 より筆者作成)

3. 『法、権利 そして責任』の授業構成原理
権利と責任に関する授業が展開されている
レッスン4～6の授業構成原理を表4に示す。

レッスン4では、教師があらかじめ用意した、身近な事例(学校へ行くこと、デモ行進をすること等)から人々は権利を持っていることを導き出し、ワークシート1の権利の箇



所にこれらの言葉を埋めさせている。これらの権利は、私たちに何を与えているだろう？と問いかけ、権利から自由を導きだしている。

レッスン5では、政府に対して自らの意思を伝えるための権利を憲法修正が保障していて、人々が権利を行使するときにはどのように振る舞うべきなのだろう？と問いかけ、権利から責任を導き出している。今度は身近な

事例（学校の規則を守ること等）から責任を導き出し、最後は、ワークシート1の責任の箇所これらの文章を埋めさせ、権利と責任の関連性を理解させている。

レッスン6では、忠誠の誓いをさせ、アメリカ法原理の認識をさせている。

全体では、アメリカ法原理の知識と認識の習得課程として組織している。

表4 『法、権利 そして責任』の授業構成原理
—アメリカ法原理の知識と認識の習得過程—

| | 学習内容 | 授業構成原理 |
|---|--|---|
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 学校へ行くこと、デモ行進をすること、これらは何を意味するものなのだろう？→人々は権利を持っていること。 ワークシート1の権利の箇所に、これらの言葉を埋める。 | <ul style="list-style-type: none"> 教師があらかじめ用意した身近な事例から権利を導き出す。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 権利は、私たち一人ひとりに何を与えているのだろうか？例えば、青信号で道路を渡ろうとする時に、法律が車は赤信号で止まらなければならないという時に道路を渡る人たちが持っているものは何だろう？→道路を渡るという自由。 | <ul style="list-style-type: none"> 権利から自由を、具体的事例を用いて導き出す。 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> 合衆国憲法修正第1条は、「国家の最高法規」である憲法から抜粋されたものですが、ここで保障されている権利にはどのようなものがありましたか？→宗教、言論、報道。 | <ul style="list-style-type: none"> 政府に対して自らの意思を伝えるための権利を人々は持っていることを理解する。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 人々が権利を行使するときには、どのように振る舞うべきなのだろう？ 政府に対して自らの意思を伝えるために平和的に集会する権利を人々は持っているが、権利の行使者はどのように振る舞うべきなのだろう？→平穏に振る舞うこと。 | <ul style="list-style-type: none"> 権利から責任を、具体的事例を用いて導き出す。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 朝起きてから皆さんは何か責任が生じたか？「遅刻しないように学校に行く」のは責任が生じたからではないのではないか？→責任が生じたから。 学校の規則を守ること、他人を傷つけないこと、これらにどのような言葉をつけるか？→責任、義務。 | <ul style="list-style-type: none"> 責任を、身近な事例を用いて導き出す。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート1の責任の箇所に、これらの文を埋めてみましょう | <ul style="list-style-type: none"> 責任に対する権利の関係を発見する。 |



| | | |
|---|---------|-----------------|
| 6 | ・忠誠の誓い。 | ・アメリカ法原理を認識させる。 |
|---|---------|-----------------|

(筆者作成)

『法、権利 そして責任』の意義を述べると、以下ようになる。

子どもたちに、法やアメリカ法原理の知識と同時に法認識やアメリカ法原理の認識の習得をさせていることである。

初等法関連教育においては、まず合衆国における民主主義原理を絶対的な存在とみなし、民主主義を成立させている法は私たちに利益を与えること、その利益を日常生活の中で享受することができるものであることを理解させよう。子どもたち自ら「法」に対する理解を文章で表現させたり、絵を描かせたり、歌を歌わせたりして合衆国市民であることの誇りや認識を身に付けさせようとしている点である。

授業においては第一に、憲法で保障されている権利は、責任を伴っているということ子どもたち自ら発見させ、人々が権利を行使するときにはどのように振舞わなければならないかを子どもたちに考えさせ、民主主義社会とその市民性にとって必要な知識を身につけさせている点である。

第二に、子どもたちが、権利と責任の関連を理解し、権利から派生してくる責任の本質を自ら発見し、理解することによって、自己の権利を正しく行使し、そしてそれらに従うために、忠誠の誓いをさせて、合衆国市民であることの認識を身につけさせている点である。

つまり『法、権利 そして責任』は、子どもたちが、法は、権利を与えているものであることと、それぞれの権利にはそれぞれ責任があることを身近な事例から発見し、これらの法原理の理解とこれ

らの法原理に従うことの認識を育成しているとした、初歩的な法関連教育の論理を示しているものと特質付けることができる。

法や権利に関する知識、及びそれに関わる責任の意識までを含んだ法的資質を育成してこそ、法の目的は達成され、現代民主主義社会を形成し維持・発展させていくものになる。

本教材において法と権利、責任の領域を関連させて学習することは、法の知識・理解だけでなく、法から派生してくる権利や責任のある認識も育成することを可能とし、民主主義社会における市民性育成のための原理ともなっているといえるだろう。

今後は、民主主義（本来民主主義とは人々が可能な限り自治的に政治参加していくことを求める政治思想であるが、わが国の社会科教育における民主主義概念の捉え方にはいくつか存在する）が教科の原理として貫かれているわが国の小学校社会科において、民主主義社会における市民を育成していくために必要な法的資質はいかなるものか、法学習がいかに位置づけられるのか、また、子どもたちの発達段階に応じて法の何をどこまで学習対象とし、いかなる内容・方法で展開していけばよいのか課題となるだろう。



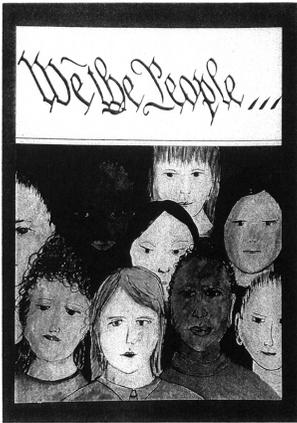
資料 1

Law

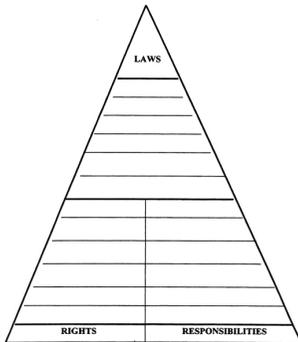
資料 2

Constitution

資料 3



Student Worksheet No.1



Student Worksheet No.2

LAW§ LAW§ LAW§

LAW§ LAW§ LAW§

Student Worksheet No.3

We the People...

Student Worksheet No.4

| | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|
| to speak | to go to school | to be protected |
| to march for change | to choose my church | to speak |
| to go to school | to be protected | to march for change |
| to choose my church | to speak | to go to school |
| to speak | to go to school | to be protected |
| to march for change | to choose my church | to speak |
| to go to school | to be protected | to march for change |
| to speak | to go to school | to be protected |
| to march for change | to choose my church | to speak |



Student Worksheet No.5

Pledge of Allegiance

I pledge allegiance to the flag of the United States of America and to the republic for which it stands, one nation under God, indivisible, with liberty and justice for all.



Student Worksheet No.6

QUESTIONNAIRE

Our class is studying about laws, rights and responsibilities. We wish to have you help us. Will you please fill out the following:

Name: _____

Relationship to student reporter: _____

A right given to you by the United States Constitution: _____

Importance of right to you: _____

Your responsibility when using this right: _____

Student Reporter: _____

【参考文献】

- ・伊藤護也ほか『法と市民』法律文化社, 1998年。
- ・大庭 健『「責任」ってなに?』講談社, 2005年。
- ・佐長健司「社会科授業の民主主義論的検討」全国社会科教育学会『社会科研究』第 59号, 2004年, pp.21-30。
- ・中原朋生「「権利に関する社会的ジレンマ研究」としての社会科－権利学習プロジェクト

ト『自由の基礎』を手がかりにー」全国社会科教育学会『社会科研究』第 58号, 2003年, pp.51-60。

- ・中原朋生「幼稚園における公民教育の論理－社会的領域論 (Social Domain Theory) を手がかりとしてー」全国社会科教育学会『社会科研究』第 75号, 2011年, pp.21-30。
- ・谷本美彦「社会科と民主主義」社会認識教育学会『社会科教育学ハンドブック－新しい視座への基礎知識－』明治図書, 1994年, pp.17-26。
- ・松井克行「公民科における民主主義と人権・平和価値との緊張局面の授業構成－Betty A. Reardon 著『寛容－平和の入り口』を手がかりとしてー」日本公民教育学会『公民教育研究』Vol.12, 2004年, pp.59-74。

【註】

- 1 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門』有斐閣, 1999年, p31。
- 2 佐々木毅他『新しい社会 6下』東京書籍, 2010年, pp.19-21。
- 3 例¹⁾ David T. Naylor, ed. *Responsibility and You. A Law-Related Instructional Unit for Grades 2 and 3*, Ohio State Bar Association, 1980. は, 子どもたちに家庭や学校など, 身近な状況において存在する日常生活における責任についてその必要性や機能について理解させているタイプのものである。
Center for Civic Education, *FOUNDATIONS of DEMOCRACY : Authority, Privacy, Responsibility, Justice TEACHER' S GUIDE*, 1997, p.2. は, 子どもたちに責任問題を公正に解決するための検討を通して責任の概念を獲得させているタイプのものである。
- 4 Olive D. Leary ed, *Law, Rights, and Responsibilities* American Lawyers Auxiliary Law-Related Education Resource Committee 2005, p.3.
Olive D. Leary は, ウィスコンシン州 Argyle の出身。ミルウォーキー郊外の Whitnall 地区の学校で教鞭を執った後教員コンサルタントとなり, Whitnall 地区の学校における社会科指導要領の改良の指導者となった。また, Wisconsin Council of Social Studies, Wisconsin Legal Auxiliary



- の代表も務めた。
- 5 森分孝治『アメリカ社会科教育成立史研究』
風間書房, 1994年, pp.499-504.
- 6 John J. Patrick and John D. Hoge,
TEACHING GOVERNMENT, CIVICS,
AND LAW, *Handbook of Research on
Social Studies Teaching and Learning*,
National Council for the Social studies,
1991, pp.427-436. を参考。
- 7 accountability はその地位にある人が他の
人に説明する責務。
blame は失敗など悪いことに対して負う責

め。

charge は人や組織に対して管理や世話を
する責任。

duty は法律上の(責務)義務。

liability は特に借金の支払い・損害賠償な
どの法律上生じる義務。三省堂辞書を参照。
尚, ハートは, 責任の概念を分析し, 役割
責任 (Role-Responsibility)
因果責任 (Causal-Responsibility),
負担責任 (Liability-Responsibility),
能力責任 (Capacity-Responsibility) の4
つに分類することができるかと主張している。

Lesson Structure of Elementary Law-Related Education for Fundamental Understanding

With Clues from “*Law, Rights and Responsibility*”

Toshie Nikaido

How would it be possible for them to achieve the purpose of the law when children at primary education stage learn what right is for the first time, and how they need to behave when they exercise the rights?

Up till now, at the education of law concepts such as law and rights at elementary school social studies in Japan, children are taught that (1) the Constitution of Japan secures their right to receive education, freedom of thoughts and academic as fundamental human rights, (2) they have duty to let their children receive education when they become adults, and (3) what kind of rights are guaranteed for people by the Constitution of Japan. In the actual situations, what kind of rights do we have around in our lives, and how can we behave to achieve social justice when we exercise the right in the proper way?

This paper discusses the matter by taking up “*Law, Rights and Responsibility*” which was developed for 3rd year students’ social studies class at elementary school by an education organization in the US. This material indicates not only about the rights which are guaranteed by the Constitution but also the responsibility each individual has to exercise the rights, and thus realizes the organized education of law, rights and responsibility.



This material suggests us how we can conduct lessons to develop the understanding of law, rights and responsibility which are critical concepts for children to get prepared to live in the democratic society.